

社会福祉法人  
日本医療伝道会  
Japan Medical Mission  
http://www.kinugasa.or.jp/

# KINUGASA

Volume. 38 Issue. 6

～「わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである」マタイによる福音書25章40節～

## 第417号



日本基督教団  
千葉北総伝道所  
牧師 大串 眞

クリスマスはイエス・キリストの誕生をお祝いする時です。そして、そのイエス・キリストが、今も、わたしたちと共にいてくださることを神に祈り、また感謝する時です。

イエス・キリストがこの世に誕生した出来事はある預言の成就と聖書は告げています。その預言はこうです。「見よ、おとめが身ごもって男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。この名は、『神は我々と共におられる』という意味である。」

イエス・キリストは十字架にかかり、復活をされて、人間の罪を贖ってくださいました。また、永遠のいのちを約束してくださいました。ここに真の魂の

### インマヌエル

— 神は我々と共におられる —

### マタイによる福音書 一章十八節～二十五節

平安と、死をのりこえる永遠のいのちの希望が信じる者すべてに与えられることになりました。将来のことだけではありません。この方が今を生きるわたしたちの「友」としてかたわらに立ってくださるようになった。それがクリスマス最大の喜びであります。

福音書を読んでいますと、この方がどんなに愛に満ちた方か、そして、どのような者と共におられるかということがよくわかってきます。イエス・キリストの周りに集まってきた人は、りっぱな人、この世において満たされている人ではありませんでした。むしろ罪人、病人、悪霊に取りつかれた人、飢えた人、傷つき、倒れていた人たちがばかりでした。主はおっしゃいました。「医者が必要とするのは病人である。」(マタイによる福音書九章十二節)、「疲れた者、重荷を負う者はわたしのもとに来

なさい。休ませてあげよう。」(マタイによる福音書十一章二十八節) また、こうもおっしゃいました。「飢えている者、のどが渇いている者、旅をしている者、裸の者、病気の者、牢獄にいる者、そういう者を訪ねたり、手を差し伸べたり、見舞ったり、やさしく声をかけたりするとき、

実は、わたしはそのような小さな者の中にいたので、わたしに奉仕をしたのと同じである。」(マタイによる福音書二十五章三十一～四十六節を参照) これは、小さき者の中に、もつと小さく、身を縮めるようにして、イエス・キリストが入ってきてくださった、そういう仕方と共にいてくださるといふことです。

苦しんだり、叫んだり、悲しみに打ちひしがれている時、孤独に涙する時

に、一緒にその苦しみを担ってください。一緒に、悲しみに耐えてくださる。共に叫び、共に涙してください。

喜んでください。イエス・キリストはあなたの真の「友」となってください。あなたの真の友がクリスマスの日にあなたのために誕生されたのです。あなたの心の戸をたたく音がクリスマス賛美とともに聞こえてくるはず。見よ、わたしは戸口に立って、たたいている」(ヨハネの黙示録三章二十節)

インマヌエル、われらの友、われらの中に入りたまえ、  
アーメン!



「日常生活動作が自分でできるようになりたい」  
「在宅生活をより快適に過したい」など  
利用者様の希望に添ったサービスを提供しています

## 入所サービスについて

介護支援専門員 村田ますえ



衣笠ろうけんの一日は礼拝とラジオ体操から始まります。ほ

とんどの利用者様が参加され、讃美歌を歌い、聖書の話をお聞きしています。穏やかな時間を過ごしています。そして背筋を伸ばし手を上げたり足踏みしたり、体を動かすことで表情も明るく生き生きと見えてきます。「今日は調子がよさそうですね」「昨夜はよく眠れなかったのですか」などコミュニケーションも生まれます。

ろうけんは歩行のリハビリを行う施設だと思われているご家族や利用者様が多いようですが、食事をする、歯を磨く、服を着る、排泄をするなど日常生活動作が自分でできるようリハビリを行う施設です。もちろん立位練習や歩行練習も行っています。

利用者様に、「これから何をしたいですか」と尋ねると「歩けるようになりたい」「一人でトイレを使えるようになって家に帰りたい」など答えは様々です。お一人おひとりの希望に添えるようにケアプランを立て、少しずつでも可能となるように利用者様とスタッフが二人三脚で毎

日の生活の中でリハビリを行っています。片麻痺で自力でトイレが使えない方は、まずスタッフが体を支え自分でズボンを下ろすことから…。服を着られない方には「良い方の手で麻痺側の手を通して」と側で声を掛けながら練習していただきます。自分でできなかったことができようになった時の喜びはスタッフにも伝わってきます。

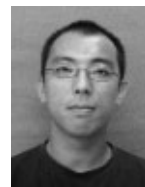
しかし家庭で十分生活できる能力を有するようになっても家庭復帰がとても難しく、老健施設でありながら特養のようにつつある現状はとても淋しい思いがします。でも「ここがいいよ、いつまでもここにいたいよ」と言ってくくださる利用者様も大勢いらっしゃいます。そんな言葉を励みに「心」あるケアをしていきたいと思っています。

おはようございます！デイケアのお迎えです。



## デイケアについて

介護福祉士 吉川清幸



「衣笠ろうけん」デイケアサービスについてご紹介いたします。

デイケア専属の職員は三名です。祝祭日も含め、月々土曜日に一日十名の利用者様を対象にサービスを提供しています。

「衣笠ろうけん」での一日の流れは、朝、皆様のご自宅へお迎えに行き、元気な挨拶からスタートします。皆様方のご自宅を周り、ドライブを楽しみながら十時前には「衣笠ろうけん」に到着します。

到着後はお茶を飲みながら会話を楽しみ、皆様の健康状態を確認する

みんなで行いリハビリ体操



ために血圧を測ります。その後、入浴希望の方々は午前中に入浴（曜日により午後の方もあり）していただき、入浴希望のない方々には、引き続き談話やレクリエーションなどを楽しんでいただきます。

昼食後は、横になり休まれるなど皆様方の自由時間とし、一時～二時の間はリハビリ担当の専門職員と共にリハビリを行います。

リハビリの内容を紹介すると、まずは集団での体操（棒体操・レクリエーションなど）を二十分ほど行います。その後リハビリ専門員が考えた自主トレーニング内容にそったリハビリを各自で行っていただき、終了した方々から作業療法（貼り絵・編み物など）を行います。その他に温熱療法（ホットパック）などもあり、毎回ではないのですがリハビリ専門員による個別リハビリを行い、皆様方の在宅生活がスムーズで快適に過ごせるようリハビリ内容の指導を行っています。

リハビリ終了後は午後のレクリエーションを楽しみ、三時にはおやつを食べ、四時過ぎには「衣笠ろうけん」を出発し、皆様方のご自宅に送り「衣笠ろうけん」での一日が終了となります。

衣笠ろうけん

利用者様とご家族、  
皆様に明るく、楽しく、快適な生活を送っていただく  
それが衣笠ろうけんの願いです。

リハビリについて

作業療法士 坂井久里子



介護老人保健  
施設は自立した  
生活を営むこと  
を支援するため

の施設です。衣笠ろうけんスタッフは国の理念と同じく、利用者様に「明るく、楽しく、快適に」自立した生活ができるような支援を行うことを目指しております。その中でリハビリテーションの役割は具体的に今後必要となる機能や日常生活動作の維持・向上に向けてのリハビリを行うことです。自宅復帰が決まっている方には、看護・介護・相談員と共に退所前のご自宅訪問とそこで得た情報を基に目標を立て、リハビリを行います。その他、利用者様とご家族双方が大きな負担なく生活できるように家の改修や道具での工夫・ご家族への介助方法のアドバイスも行います。

また、実際には自宅復帰ではなく他所へ移っていく方、ご家族の事情や用事のため短期入所の方、理由あって長い期間入所されている方など様々な方がいらっしゃいます。その方々のニーズに合わせて私達は大きく分けて個別・集団リハビリの二つを行っています。

個別リハビリは、リハビリスタ



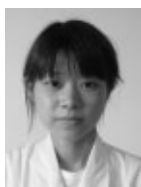
個別リハビリも楽しいネ！



おいしい食事は元気の源

食事について

管理栄養士 高野優子



昨年の十月より、介護保険制度の改正とともに栄養ケア・マネジメントが始まりました。栄養ケア・マネジメントの目的は、低栄養状態の予防と改善ですが、その土台となるものは、利用者様の目標達成へ向けて、栄養面でのサポートをしていくということです。

栄養ケア・マネジメントを行う上で、まずは、適切な食事提供を行うことが大切で、食形態や食事量、ご本人やご家族の意向なども考慮した上で、医師や看護師とともに決定しています。そして、摂取状況を確認

し、問題点があればその課題に向けて、ろうけん職員や栄養科職員の協力のもとにサポートさせていただいております。食事時間になると、食堂に集まり皆さんそろってお食事をされます。時には利用者様とコミュニケーションを図りながら食事の様子を見させていただいています。食事は大切な楽しみの一つであり、皆様な意見を持っておられ、度々食事に対するご意見、感想をいただきます。「今日のごはんはおいしいよ」「野菜が少し硬くて食べにくかった」など率直な意見を聞き、全員の見解を反映させることは難しいことですが、出来る限り利用者様の意見を食事に生かして満足していただきたいと思っています。

また、ろうけんでは祝い膳、納涼祭、寿司パーティー、クリスマス会、餅つきなどの行事食や、毎月一回のお誕生日会などがあります。食事内容だけでなく、楽しい雰囲気作りも大切にしており、何日も前から時間を見つけては会場作りの準備をし、利用者様に楽しい時間を過ごしていただきたいというスタッフ一同の思いが感じられます。

私もこのような素晴らしいスタッフと共に、利用者様のために少しでも力になれるよう精一杯頑張りたいと思います。

# 在宅療養支援診療所の開設に当たって



衣笠病院  
副院長兼診療所長  
伊藤義彦

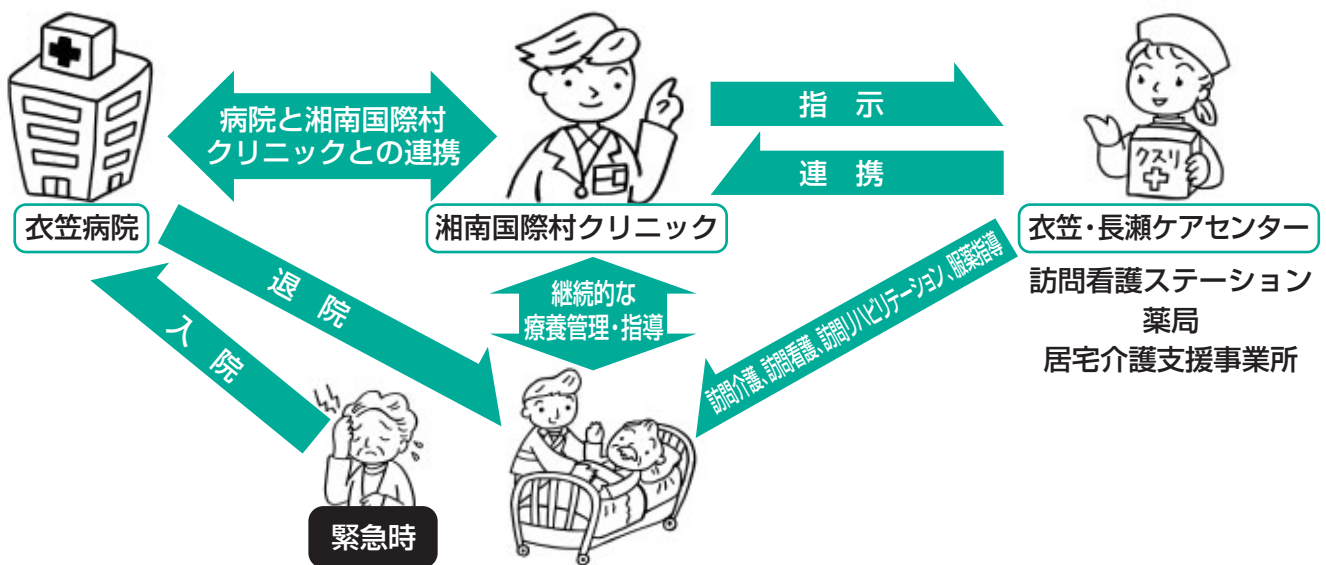
衣笠病院グループは2006年10月1日、湘南国際村クリニックをベースに「在宅療養支援診療所」を開設しました。

## 開設に至った主な動機

①当法人は基本理念である「わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである」を具現化するためOMK (Onward Mission Kinugasa)を通して「全人的な地域のヘルスケアの実践・教育・研究拠点となる」家庭医療センター構想を掲げました。現在衣笠病院が行っている在宅医療を独立した機能として体制強化することは、このビジョンを実現するための原動力になると思われます。②本年四月の診療報酬改定で国は在宅医療を強化するため「在宅療養支援診療所」構想を打ち出しました。これは私たちのビジョンにも合致するものです。③この構想が実現するためには人材確保が大きな案件でしたが、幸い在宅医療を志す有能な医師二名と看護師一名が新たに加えられ、診療所開設に踏み切ることが出来ました。

## 当診療所の特色となる主な機能・役割

①在宅療養支援診療所はクリニックをベースとすることが基本となります。また常勤医師が最低一名必要です。②二十四時間三六五日対応となります。③原則として月二回訪問しますが、病状に応じて回数が変わります。④在宅ホスピスも新たに加わります。⑤当法人の特色を生かして衣笠病院との連携(特に緊急時の入院、レスパイト入院など)、ホスピス・訪問看護ステーションなど当法人各施設との連携を強化します。⑥将来的には他医療機関等との連携を強化し、地域ぐるみの在宅医療を目指します。⑦診療の質向上のため、各種企画を計画しています。



以上、当診療所のアウトラインを記しましたが、ここで在宅ホスピスについて若干言及してみます。ホスピスに携わる多くの者は、在宅ホスピスケアを「理想のホスピスケア」として、その実現に向けて力を注いでいますが、現実には甘くはありません。人材確保が困難だからです。ところで入院中心に発展した英国式ホスピスに対し、米国では在宅ホスピスを中心に発展してきました。米国では、ホスピス誕生に先立つことおよそ一〇年前から、在宅ケアが始まっていて、既存の在宅ケアシステムを利用して、ホスピスケアを提供すればよかったです。当法人でもこの在宅療養支援診療所をベースに在宅ホスピスを行うおうとしています。病状の診療に携わりつつの対応は多くの困難が予想されます。この試みが成功するためにはさらなる人材の確保と、病院側の診療体制の充実が緊急の課題となっております。皆様の御支援よろしくお願いたします。

在宅療養支援診療所開設

湘南国際村クリニック

私たちがお伺いします！



今まで、日本医療伝道会では衣笠病院による訪問診療（いわゆる往診）を行ってまいりました。十月一日からは内容をさらに充実させて、同法人内施設の湘南国際村クリニックに在宅療養支援診療所を置いて訪問診療を続けることになりました。この訪問診療は他の診療所や医院でも行われています。衣笠病院はこれらたくさんの方の診療所の先生方とも連絡を取り合い、入院施設の提供、皮膚科・眼科・耳鼻科などの専門医相談を行うことで、地域社会に医療福祉の還元を行っていきたくと考えています。

では年齢順にスタッフ紹介です。十月一日時点では医師三名、看護師一名が在籍しています。

金井 稔（かない みのる）



北陸地方の大学を卒業し、スーパーローテート研修を行った後、緩和医学を学んできた。笹川医学医療研究財団のホスピスドクター養成研究助成を受けて、聖隷三方原病院のホスピスで二年とチョットと終末期医療と緩和医療を勉強してきた。在宅ホスピスや在宅での緩和医療導入をもくろみ、今年の五月に浜松から引っ越ししてきた。

大友 宣（おおとも せん）



北海道にある大学を卒業し、聖隷三方原病院でスーパーローテート研修を行った後、横須賀の地にやってきた。家庭医学を専門とする。大学在学中より在宅医療を視野に入れていた。かかりつけ医や往診医は内科学、外科学、皮膚科学などどんな専門医でもなれる。大友はその中で家庭医学を専門として、在宅療養支援診療所から患者様の自宅へ訪問診療（定期往診）に行くことになる。

辻本紀美子（つじもと きみこ）



北陸地方の大学を卒業し、縁あってこの衣笠病院に赴任していた。内科に所属しながら東洋医学（漢方）をとり入れ診療をしている。年齢は一番若いですが、この衣笠での訪問診療では古株の自称「姫」系。今までは衣笠病院からの往診であったが、そこでの知識と情報を持って金井、大友と合流して、湘南国際村クリニックより訪問診療に当たることになる。

野地まり子（のじ まりこ）



東京の学校を卒業して看護師となった。ホスピスや救急医療の現場で看護に携わる中で、自宅での存在意義を意識するようになった。横須賀の某病院で大友と一緒に仕事をし、在宅医療に興味を持った。今回、大友マジックに引きつけられて湘南国際村クリニックにやって来た。見かけは細いが、芯は太い。

そしてお気づきの方もいらっしゃるかもしれませんが、金井も大友マジックにはまったようです。

## 看護部長に就任して



衣笠病院  
看護部長 森本武子

昭和二十二年「愛のこもった医療福祉をめざして」創立、診療開始して来年は六十周年を迎えます。このような大きな節目の時期に、衣笠病院の看護部長へと声をかけていただき、重責に胸がつぶれそうになりましたが、初心にかえって、希望と勇気をもって、二〇〇六年十月一日に就任いたしました。

近年は、少子高齢化社会の進展と人々の豊かなニーズを受けて、医療、看護は益々高度化複雑化し、質を問われる時代になりました。地域の人々のニーズを十分に把握し、一人ひとりに最適な、より良いサービスを提供しなければなりません。常に地域の方々から支持され、信頼される病院を存続させるためには、医師は勿論のこと、看護の果たす役割と責任は、大変重要であります。

### 今年度、看護部の目標

- 一、信頼と安全を重要視した看護の実践
- 二、一般急性期病棟として地域に貢献
- 三、在宅医療支援機能との連携体制作り

- 四、ホスピスの充実
- 五、病院経営の健全化に協力
- 六、職員教育の充実

看護師が安心して、自信をもって看護実践できますよう、マンパワーの確保、教育企画の実施、安全性を高めるための勤務環境の整備、チーム医療の推進に尽力します。

患者様に看護を提供するということとは、専門職としての自覚を持ち、その時代の水準の知識、技術、教養を身につけ、相手の真の心、魂に届く、深い深い愛をもって、全人的ケアを実践することです。私はこのことを信念とし、永い間看護の道を歩んで参りました。

この厳しい医療制度改革の時代を、知性と感性とパッションをもって、皆様と共に手をたずさえて、患者様一人ひとりの人間性を尊重し、心温まる質の高い看護を提供し、衣笠病院の使命が果たせますよう努力して参ります。

今後とも変らぬ看護部へのご指導、ご支援ご協力を心からお願いたします。

## Onward, Mission Kinugasa

### — 衣笠病院グループ中期計画 —



衣笠病院  
医療技術部長 千葉 一

#### 衣笠病院グループの使命(ミッション)

音書二十五章四十節にある「わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである」であります。その使命に基づき**全人医療**を実践し続けてきました。しかし昨今、医療・介護・福祉を取り巻く環境は一段と厳しさを増し、医療関連施設は淘汰されてしまいう時代になりました。

このように変化する状況に対応すべく、法人常務理事会において**OMK**(衣笠病院グループ中期計画)が策定されており**ビジョン**、めざしているのは「**総合地域医療**」です。このビジョンの浸透と計画達成に向けOMK推進会議を設置し取り組んでいるところです。その実績と具体的計画は次のとおりです。

#### ◆二〇〇六年度の実績と計画

- ① 七月 急患・救急受入体制の強化
- ② 八月、九月 全員参加の仕組み作りとしてOMK職員報告会を衣笠病院グループ各施設で開催
- ③ 九月、十月 「衣笠病院グループに求められるこれからの役割」について管理者研修会の実施

- ④ 十月 「在宅療養支援診療所」開設

下半期の具体的計画として、

- ⑤ 開放病床開始
- ⑥ 登録医制度実施

#### ◆二〇〇七年度計画

- ① 四週八休制の導入
- ② 病院機能評価更新

#### ◆二〇〇八年度計画

- ① 診断群分類別包括評価(DPC)の導入
- ② 教育研修病院

この他、組織体制強化(基盤確立と透明性向上)、健全経営(経営管理体制整備)、人材育成については継続して取り組んでおります。

今後も使命に基づく計画達成に向け、衣笠病院グループのビジョンをより明確にして前進しなければなりません。皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

\* 法人の名称は「社会福祉法人 日本医療伝道会」ですが、地域の皆様方には「衣笠病院」という名前が親しまれております。そこで今、私たちは地域の方々により愛されるべく、その呼び名を「衣笠病院グループ」と表現させてもらい、今まで以上に地域社会へ奉仕し、お役に立てる施設を目標に努力してまいります。

衣笠病院

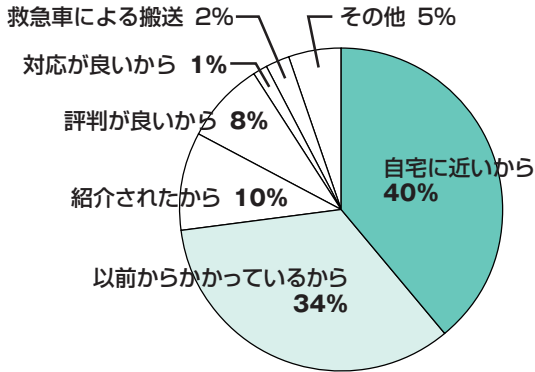
■「患者様の満足度についてのアンケート」の報告  
皆様のご意見 ありがとうございました



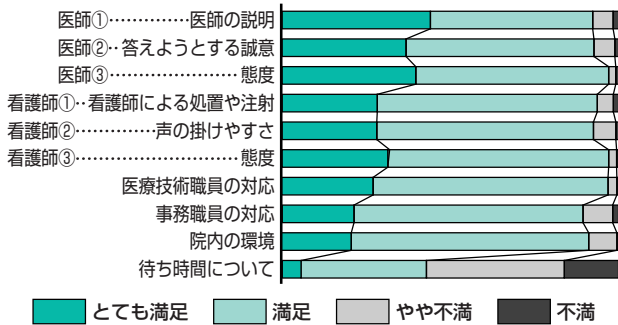
衣笠病院 院内統合情報システム室  
病院機能評価受審準備室 主任 石井富美

衣笠病院では「来てよかった病院」と言われるように、患者様にご満足いただける医療をめざしております。患者様中心の医療を心がける第一歩は患者様の話をよく聞くことです。患者様がどのように感じられ、思われているのかを伺い、衣笠病院にはどのような問題点があり、改善すべき点があるのかを知るために、二〇〇六年八月に患者様の満足度についてのアンケート調査を行いました。記述式のアンケートでしたが入院患者様の約四割、外来患者様の三割以上の方のご協力をいただきました。来院理由としては、「自宅に近い」と「以前からかかっている」の合計が七十%以上であり、衣笠病院が地

■来院理由



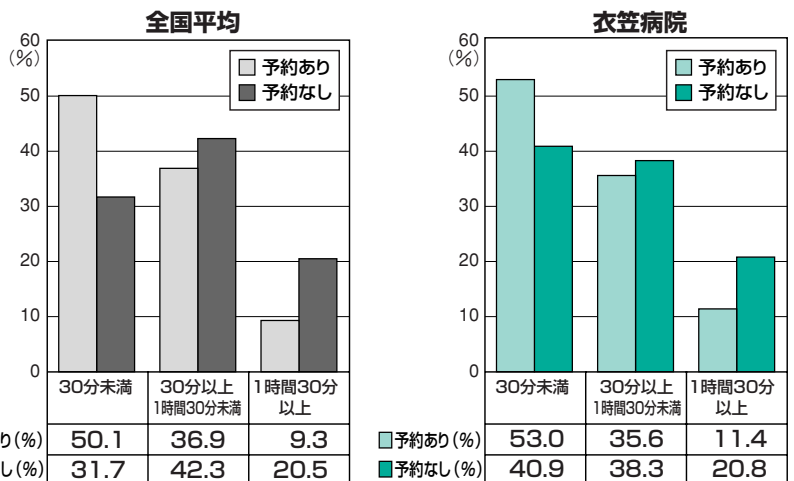
■外来スタッフの対応・態度について



域の方々にご利用されている様子が見えつきりと示されました。来院される方の年代としては六十代以上の方が全体の六割以上を占めています。アンケートの内容は、医師、看護師などのスタッフの対応、病院内の設備についてなどの質問と、自由に書いていただくご意見欄を設けました。医療スタッフの対応は全ての項目で九十%以上の「満足」という回答をいただきました。医師の説明や態度に関しての満足度は高く、患者様と医師のコミュニケーションが十分に取れているという実感をうけました。一方で事務系スタッフの対応には「やや不満」を感じられる方が若干多く、反省させられる点であり

ました。入院中の方では食事に対するご意見が多く、食事への関心の高さを感ずるとともに、個々の嗜好に合わせる工夫の必要を感じました。全体的に良い評価をいただきましたが、「待ち時間」については、かなり多くの方が「不満」を感じられている現状がはつきりと現れました。「待ち時間」についてのご意見は以前から数多く寄せられておりましたので、アンケート調査と同期間で、「外来診療待ち時間調査」を行いました。予約のある患者様は予約時間から診療開始まで、当日受付の方は受付時間から診療開始時間までを待ち時間としました。その結果、全体の待ち時間は全国平均よりやや短いものの、診療科による差が大きく、特に予約制を導入している診療科では「予約外」で来られた方の待ち時間が長くなっている現状が明らかになりました。予約の方の診療が優先となつているため、予約以外で来院された方についてはある程度の待ち時間は生じてしまいます。予約時間に診療出来ることを大前提とし、予約以外で来院された方への配慮ができるような体制を整える取り組みや待っている

■厚生労働省が調査した全国の中規模病院の平均待ち時間と衣笠病院の平均待ち時間の比較



時間のストレスを減らしていく対応策の検討を始めています。皆様からの数多くの貴重なご意見をいただきましたが、その中で、病院やスタッフへの感謝・励ましの言葉を沢山いただき、衣笠病院が地域の方々が必要とされていることを実感いたしました。これからは患者様、地域の方々との信頼関係を築きつつ、患者様中心の医療の提供に努めてまいります。

※詳細な報告は衣笠病院のホームページに掲載されています。

Information from Kinugasa

クリスマス・年末を迎えて  
ご支援のお願い

衣笠病院は来年、診療を開始して六十年目を迎えます。当時をご存知の方々は現在の建物と、多岐に亘る事業内容に時代の推移を感じられることと思います。

高齢社会となり、利用者のニーズも様々であり、これで良いとする地点のない医療、福祉のサービスです。安心して子育てができ、生活し、老いを迎えられる町、地域を支える病院でありたいと願い、ホーム・ろうけん・ケアセンター、さらに十月から在宅療養支援診療所もオープンした、社会福祉法人日本医療伝道会の働きに、今年も皆様方の温かいご支援を賜りますよう、お願いいたします。

衣笠病院福祉医療後援会  
会長 市川 潔

- 衣笠病院福祉医療後援会
- 会長 市川 潔
  - 副会長 斉藤篤美 松山慶三
  - 監事 島崎一也 召田博万
  - 評議員 赤池和治 生野隆彦
  - 井出智三 久保田寅吉
  - 熊沢満夫 古敷屋美津江
  - 小林 俊 中村昌弘
  - 平川 清 松野正樹
  - 木村重雄

後援会事務局  
〒238-8588 横須賀市小矢部 2-23-1  
社会福祉法人日本医療伝道会  
電話：046-852-6256  
郵便振替口座：00220-2-13963  
口座名：社会福祉法人日本医療伝道会  
振込用紙を準備いたしましたのでご利用ください。

■二〇〇六年十一月一日より  
全館禁煙のお知らせ

当院は健康維持に貢献することを目的とし、以前から館内の一部を除いて禁煙とするなど分煙に取り組んでまいりましたが、さらなる健康の維持・増進のために十二月一日から全館禁煙とすることにいたしました。

これを機会に一人でも多くの方に禁煙の必要性を理解していただければ幸いに存じます。

皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

衣笠病院 病院長 橋本勉

ありがとうございます  
そして、さようなら  
退職者のお知らせ

二〇〇六年九月三十日付で衣笠病院から二名の方が定年退職を迎えました。これまでのお働きに心から感謝申し上げます。これからも、お元気で、ますますのご活躍をお祈り申し上げます。



医療技術部 栄養科  
調理師  
安部チエ子さん  
勤続23年11ヶ月



病院長 秘書  
中村みどりさん  
勤続24年4ヶ月  
引き続き嘱託として勤務

パイプオルガンミニコンサート

12月16日(第3土曜日)  
15:00~ 第132回  
演奏 石井富美

1月27日(土)  
15:00~ 第133回  
演奏 平田知子

糖尿病教室

12月21日(木)  
食事療法・栄養指導・糖尿病の検査 他  
14:00~16:00

1月18日(木)  
食事療法・栄養指導・薬物療法 他  
14:00~16:00

健康講座

12月21日(木)  
運動不足解消～サーキットトレーニング～  
13:30~ 講師 岩崎宏子

1月20日(土)  
体力アップ!持久力トレーニングのすすめ  
13:30~ 講師 三井つた恵

記事中の写真は全て本人様の承諾を得て掲載しています。

編集後記

●時の流れは早いものでもう十二月という感じです。そして師走は何かと忙しい?忙しいふりもしない?カラダが持たないという人もいます。忘年会、年賀状書き、クリスマス会、年越しイベント、来年の準備、まだまだたくさん予定があるとは思いますが、今年も慌しい月なんだろうかと。今年もあつという間の一年になりました。

●クリスマスプレゼントは何がいかな?今から考えておかないと・・・あげるプレゼントといたなくプレゼント。思っているものは、なかなかこないし、きつくない。子供だったら多分思っているものがくるのだからうけど。あ、もう一度子供になつて欲しいものをゲットしたいなあ。でもそれは、大人が欲しがれるものなんだ。映画のビックの逆バージョンで自身が大人でからだの子供???もういいか・・・皆さまに素敵なクリスマスプレゼントが届きますように心よりお祈り申し上げます。(H・O)

衣笠 第417号  
〒238-8588 横須賀市小矢部2-23-1  
社会福祉法人 日本医療伝道会  
理事長 井口 延  
電話 (046)852-6256(法人)  
振替口座 00220-2-13963